

# 19 大人への階段 ～ I have a dream! ～

## 1 主 題 権利と責任

### 2 主題・教材について

少子高齢化、人口減少社会を迎えている現状において、日本の未来を創り担う存在である若者の、社会の担い手として意識の醸成と政治に関わろうとする主体性の育成が求められている中、2015（平成27）年、「公職選挙法等の一部を改正する法律」が成立・公布され、2016（平成28）年施行となった。これにより、年齢満18年以上満20年未満の者が選挙に参加する（有権者になる）ことができることとなる。（※1）

有権者になるということは、選挙等を通じて政治の過程に参加する権利を得ることと同時に、国民や地域の住民の意思に基づき選ばれた議員が皆の意見を議論し合意された決定に対しては、構成員の一人として従うという義務が生じることである。誰かに任せるのではなく、積極的に選挙を通じて、課題について調べ、考え、自分なりに判断し、政治に参加していくことも権利であり、国家・社会の形成者としての責務とも言える。

そもそも、私たち人間は、生まれながらにして自由かつ平等であり、だれからも奪われることのない様々な権利を等しくもっている。しかしながら、それらは初めから一人一人に備わっていたわけではない。参政権をはじめとする様々な権利は、人類の長い歴史にわたる努力の成果として確立されてきたものである。

この教材を通して、自身の生活をより豊かに変えるための大切なものとして、参政権を認識するとともに、その行使に際しては、他の人々の権利を侵害しない責任、権利を侵害されたり拒否された人々を支援する責任を負う必要があるということにも気づかせたい。

なお、クラスには満18才になっても選挙権をもつことができない生徒（外国籍等）がいることを前提とし、そうした生徒に十分に配慮して授業を進める必要がある。

※1 国立国会図書館の調査（平成26年）によると、世界191の国・地域のうち、9割近くが日本の衆議院にあたる下院の選挙権年齢を「18才以上」と定めている。選挙権年齢は、ヨーロッパの国々を中心にさらに引き下げを進める動きが活発化しており、オーストリアでは既に「16才以上」への引き下げが行われ、ドイツやノルウェーなどでも、特定の州や地域で16才以上への引き下げが行われている。

- ### 3 ねらい
- ・選挙における投票権の行使は、大切な人権とする認識を深める。
  - ・権利と責任の関係を理解する。
  - ・日常生活における権利と責任を関連づける技能を培う。

### 4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	「選挙に行く」ことについて考えよう。		模造紙 マーカー
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙権を得たとして、「投票に行く」グループと「投票に行かない」グループとに分かれる。</li> <li>・それぞれのグループで、投票に行く（行かない）理由を模造紙に書き出し、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められない生徒については、両方のグループの人数が均等になるよう、無作為に振り分ける。</li> </ul>	
展開	公民権運動（※2）を知ろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を読み、内容を確認する。</li> <li>・キング牧師の夢について意見を交換する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の質問により、内容を押さえておく。</li> <li>▷1800年代前半、アメリカの黒人の暮らしはどうであったか。</li> <li>▷キング牧師たちは、何を求めて行動していたか。その行動はどのようなものであったか。</li> </ul>	

展 開	再び「選挙に行く」ことについて考えよう。		ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> <li>選挙権を得たとして、「投票に行く（行かない）」ことについて、その理由も含めて意見を交換する。</li> </ul>		
開	選挙権のある人から聞き取ろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近の選挙について、「投票に行った（行かなかった）」人の年代と理由について、グループに分かれて聞き取り調査を行う。</li> <li>全てのグループの調査結果を集約する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に十分配慮する。</li> <li>地域の実態（人通りの量等）にもよるが、1時間程度（約50人）を目安に行う。</li> <li>グループで、「いつ、どこで調査するか」「どのように聞き取るか」などについて、事前に話し合う時間を確保する。</li> <li>答えたくない人からは無理に聞かない（「回答拒否」として処理する）ことを確認しておく。</li> <li>「投票した人が最も多い（少ない）世代」「最も多い投票した理由」「最も多い投票しなかった理由」などに注目させる。</li> </ul>	
ま と め	聞き取ったことをもとに話し合おう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査した時と違うグループで、調査の様子やその時感じたこと・学んだことなどについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワールド・カフェ（※3）を行ってもよい。</li> </ul>	
ま と め	学習をふり返ろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のふり返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>投票の必要性や投票権の行使などについて、自分だけでなく、他者の認識や意見の変化等について考えるように促す。</li> </ul>	

※2 1950年代後半から活発となったアメリカの黒人の基本的人権を要求する運動

※3 ワールド・カフェとは、“カフェ”にいるようなリラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、ときどき他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させていくこと。相互理解を深め、集合知を創出していく組織開発の手法。

（参考資料：明石書店「人権教育のためのコンパス [羅針盤] 学校教育・生涯学習で使える総合マニュアル」）

【ワークシート】

## 調査用紙

当てはまる回答欄に「正」の字を書いて数えていきましょう。

【投票に行かなかった人】

理由 \ 年代	～24才	25～39才	40～59才	60才～	回答拒否
結果は何も変わらないと思ったから					
投票したい人がいなかったから					
提案されたどの政策にも同意できなかったから					
面倒だったから					
その他 (詳しく記述)					

【投票に行った人】

理由 \ 年代	～24才	25～39才	40～59才	60才～	回答拒否
民主主義における自分の責任だと思ったから					
投票したい人がいたから					
提案された政策に同意できたから					
誰かに誘われたから					
その他 (詳しく記述)					

グループのメンバー：